

# すい 垂 さい 彩 けい 景

## ～垂彩景が映す『恥』の新たな感覚～

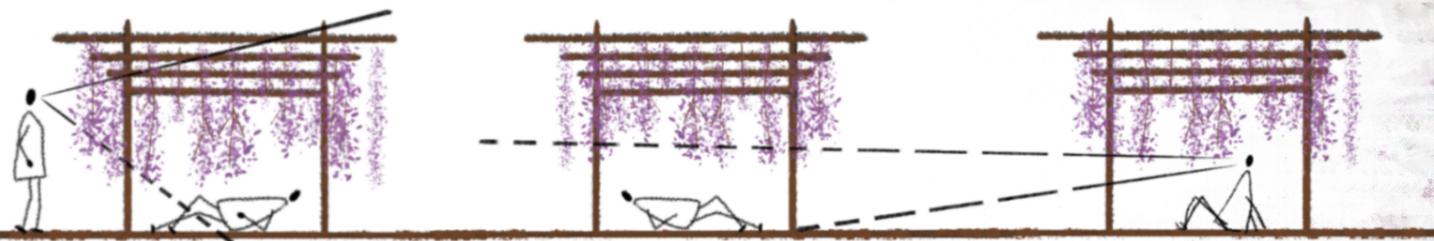
恥とは日本文化と密接に関わる感性であり、「恥」という実体のない共通感性の再発見が「まだ名もない和の表現」となる。

## ～恥の認識～

自分の経験を「恥」という観点から再認識する。海外の広場の至る所で人が横になってくつろいでいる。日本では見ることがない光景。恥ずかしいとすら思える。しかし、真似してみると不思議と心地よい。周りの横になっている人と空間を共有した感覚があった。これは「恥」を克服することで「新しい共感」が生まれた瞬間だった。

## ～造形による体勢の誘導～

「新しい共感」を誘発させる仕組みを公園に設置する。



木組みの高さが内側へ徐々に低くなることで中へ入る人の体勢を誘導する。同じ姿勢の人とは視線を揃え、遠くの東屋にいる人とも視線が繋がることで空間を共有し、同じ体験をする人と距離を超えて共感が生まれる。

